

José rubichi y Fernando Jiménez

Compás gitano

aire de jerez

東京

2018 4.23(月)

開場 : 18:30

開演 : 19:30

tablao Casa de Esperanza

Cante *Manuel de la Malena*

Toque *Emilio Maya*

Palma *José Rubichi*

Baile *Fernando Jiménez*

大沼由紀

秦 晴美

Manuel de la Malena

1958年ヘレス・デ・ラ・フロンテラ生まれ。有名なラ・マレーナを祖母に、ロス・ネグロス・デ・ロンダを祖先に持つフラメンコ名門ファミリー出身。アントニオ・エル・ビバ、メルチェ・エスメラルダ、エル・グイート、マノレーテ等の舞踏家と共演。また、ティオ・ポリーコ、アグヘタス、カマロン等とも共演。現在、スペインや日本、ヨーロッパ各国で活動中。



Emilio Maya

1962年生まれ。8歳の時からギターを弾き始め、アンダルシアの様々なペーニャ等に出演し、様々なアーティストと活動する傍ら、舞踏伴奏者としても活躍。2001年にはアントニオ・カナーレスと共にブラジル公演を行う。彼のグループ“グルーポ・マヤ”はヨーロッパで人気を博している。2017年は自身初となる公開オーディションを企画。グラナダで行われる「Semana de Japon」日本文化週間で披露する。



大沼由紀

佐藤佑子に師事した後、1992年渡西。ヘレスのフラメンコに強い影響を受け、帰国後も短期渡西を繰り返して研鑽を積む。2004、05、07、16年とヘレスよりアーティストを招聘して自身のリサイタル“espontánea”〜フラメンコ、自然発生的な〜を開催。2007年マドリッドのフラメンコフェスティバル「SUMA FLAMENCA」に出演。



秦 晴美

2003年より日本とヘレスを往復。ヘレスでヒターノたちの生きる欲びに満ちたブレリアに強く惹かれ、彼らのフラメンコを生活の中で学ぶ。アナ・マリア・ロベス・ペベト・レス、アンヘリータ・バルガス、ドローレス・アグヘタ、ホセ・メンデスに師事。

